



スイスの誇り、チエチーリア・バルトリ チューリヒ歌劇場へのデビュー30周年記念イベント

ガラ・コンサートのカーテン・コールから。中央がバルトリ、左はテノール歌手のハビエル・カマレナ、右はヒュー・モンターギュー・レンダール

チエチーリア・バルトリのチューリヒ歌劇場デビュー30周年記念行事については、スイス国営テレビSRFのニュースでも連日報道された。スイス人の夫とチューリヒ郊外に居を構え、歌劇場から歩ける距離に財団も構えるバルトリが、スイスの誇りとなっていることを再認識させられた。年末のヘンデル《セメレ》再演で始まった記念週間は、年明けの「舞台の上の晩餐会」で頂点に達し、次世代の歌手を支援する「インターナショナル・オペラ・スタジオのためのチャリティ・コンサート」で幕を閉じた。

雪が降り続いた1月10日、チャリティ・コンサートでは30年間を振り返るシーンの数々が再現された。まずはカストラートをテーマにしたCDのローンチ・パーティ（立ち上げ会）の装いと同一「男装の麗人」姿で、ヴィヴァルディのオペラから《シルヴィア》、《ティト・マンリオ》、続いてヘンデル《ガウラのアマデージ》を古





記念のケーキ・カット? を行う



「舞台上の晩餐会」から

「いちばん興味深い役柄」と話していたからだけではなく、オペラ・スタジオ卒業生で、テッカのバルトリ監督CDレーベル第一弾からソロCDデビューさせたハビエル・カマレナとのデュエットも考えてのことだろう。前出のマーフィが歌うドン・アルフォンソとシニード・オケリーが歌うドラベツラとの三重唱では、ソプラノでも難しい音域を、統制された歌唱技術で歌い上げた。カマレナが歌うフェランドとの二重唱も、高い緊張感を持続させてドラマティック



膝丈ドレスで可愛いツェルリーナとなったバルトリ

取材・文 中東生
Photo=Andrin Freiz

アンコールは、当歌劇場にデビューした際のケルビーノのアリアと、共演者と一緒に歌ったヴェルディ《椿姫》の乾杯の歌で観客を湧かせた後、バロックに戻り、もう2曲歌った。終演後「上手だったのはヴィオレッタまでね」と自嘲していたが、疲れを圧しても、心からの感謝を表したかったのだろう。

楽器のソロと共に驚くべき精密さで聴かせた。
後半はアレヴィイ《クラリ》で着ていたピンクの膝丈ドレスで可愛いツェル

リーナに扮装し、ヒュー・モンターギュー・レンダールのマゼットとティーン・マーフィのドン・ジョヴァンニというオペラ・スタジオ生の若手バリト

ン2人の狭間で揺れる乙女心を歌った。バルトリはこのオペラで、ドンナ・エルヴィーラ役も歌っている。
続くモーツァルト《ゴジ・ファン・トゥツテ》では、キャストの女性3人すべてを経験済みのバルトリだが、今回フィオルディリージを選んだのは、以前

だったが、カマレナの歌唱はモーツァルトでは光らない。彼の真骨頂を聴くには、後半まで待たなければならなかった。
前半最後はバルトリをスターダムに押し上げたロジーナ役を、レンダールが歌うフィガロとの《セビリヤの理髪師》二重唱で飾り、ロジーナ歌いの教科書となるような完璧な歌唱を聴かせた。

後半はカマレナがトークで笑いを取った直後、輝く高音を誇ったラミローのアリア《ロッシーニ《チエネレントラ》から》で大喝采を浴びた。続いてバルトリがロッシーニ《オテロ》から《柳の歌》と《祈り》を歌い切った後、《チエネレントラ》のラスト・シーンとアリアでプログラムを終えた。

花を受け取るバルトリ。30周年イベントのニュースはスイス国営テレビSRFで連日報道された